

キャラクター名	プレイヤー名
薊 淋夜(あざみ りんや)	

シンドローム	オルクス ウロボロス		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	反逆者
	オプション		年齢	18	性別	男
覚醒	無知	衝動	嫌悪	初期侵食率	39	%
出自	天涯孤独	経験	心の壁	邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	1	0	0			1	行動値	9
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	9
精神	3	1	1			5	戦闘移動	14
社会	2	0	0			2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚			意志	3		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	2
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費	
守護者	P	N			
孤児院の子供達	P 庇護	N 悔悟			
彩飢 弔	P 執着	N 憎悪			
三色 奏良	P 連帯感	N 不安			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	4	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ゴゼット:ウロボロス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-LV(下限値7)								
飢えし影	1	1	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 射撃攻撃/攻撃力+[LV+2]								
原初の赤:憎悪の炎	1	2+1	メジャー	-	-	対決	-	
効果: 与ダメ時対象に憎悪を与える/対象は自分								
原初の紫:暗黒螺旋	5	3+1	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 白兵攻撃ガード時/攻撃してきた相手に[LV×5]点のHPダメージ/ラウンド1回								
歪みの領域	3	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 射撃攻撃ガード時/攻撃してきた相手に[LV×5]点のHPダメージ/ラウンド1回								
原初の灰:棘の獣身	3	4+2	オート	至近	自身	自動	120↑嫌悪	
効果: ガード時/攻撃してきた相手に[LV+2]D点のHPダメージ/								
成長促進	★	-	メジャー	視界	シーン(選)	自動	-	
効果: 領域内の植物に種を埋め込み成長させる								
猫の道	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 通常ではありえない方向や場所に道を作る								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

いつもヘラヘラ笑っている緊張感のなさそうな男。真面目な顔もしようと思えばできるが本人曰く「笑顔が癖になっている」らしい。子供を蔑ろにする大人のことか心の底から嫌い。

○過去
物心ついた頃には孤児院にいた。本当の両親のことは知らない。名前はあったが誰が名付けたのかも分からない。孤児院はかなり劣悪な環境で、そこで暮らす孤児たちは手酷い扱いを受けていた。そんな状況をなんとかしたいという一心で、幼いながらもみんなの不安を無くすために一生懸命笑って、子供たちのことを見ようとしめない大人たちの力を借りずに、みんなの「お兄ちゃん」として孤児院の世話をするようになった。何度か淋夜を引き取りたいと言ってくれる人もいたが、どうしても大人のことを信用することができなかったのどわざと問題行動を起こしてお引き取り願ったりした。孤児院ではほとんどの孤児が小学校に上がる頃には引き取られていったので、淋夜が10歳になる頃には孤児院の中でも最年長になっていたが、一緒に過ごした子たちが笑顔で巣立っていくのを見送るのは嬉しかったし、お兄ちゃんとして頼られるのも悪い気はしなかったのでも何も不満はなく、むしろ幸せを感じてすらいた。なんとなく自分はこのままみんなのお兄ちゃんとして子供達を見守って見送って生きていくのだろうと漠然と考えていたりした。しかし、その考えは間違いだったとすぐに知ることとなる。

淋夜が10歳になった頃、自分の身体に違和感を感じ始めた。実は、自分でも気付かぬ間にレネグイドウイルスに感染しており、オーヴァードに覚醒していたのだ。とはいえほんの少し違和感があるだけで何も支障はなかったし、気づかないフリをすれば問題ない、と思い、実際に何も起こらないまま数年が過ぎていた。ある日、孤児院の子供達と一緒に買い物に出掛けていて、工事現場の側を通りがかった時、不慮の事故で資材が子供達の頭上に落下してきて、子供達を守るために、咄嗟に、たった一度だけ、能力を使ってしまった。その「たった一度」をUGNに見つかってしまった。大人たちの勝手な事情と「平和のため」だとかいう大義名分によって、淋夜は「幸せ」から隔離され、UGNに保護された。いや、彼にとっては「連れて行かれた」が正しいだろう。

UGNチルドレンとして、知りたくもないオーヴァードのことを教えられて、使いたくもない力の使い方を教わった。淋夜には、全くとっていいほど戦闘能力が